



自然に優しく安全に厳しく、生命と緑の未来のために

2013年9月期  
**決算説明会**

2013年11月29日



日本農薬株式会社

<http://www.nichino.co.jp>

## 説明会次第

- I. 2013年9月期実績について
- II. 中期経営計画のブラッシュアップについて
- III. 2014年9月期見通しについて
- IV. 海外展開と研究開発の状況について
- V. 質疑応答



---

# I. 2013年9月期実績について

---

## 2013年9月期実績(前期比)

### 増収増益

(単位:百万円、%)

	13年9月期	12年9月期		
	実績	実績	前期比	伸び率
売上高	47,627	42,245	5,381	12.7
国内農業販売	20,055	20,326	△ 270	△ 1.3
海外農業販売	19,116	14,735	4,381	29.7
化学品・医薬品他	3,763	3,980	△ 217	△ 5.5
ノウハウ技術料	2,814	1,233	1,581	128.2
その他	1,876	1,971	△ 94	△ 4.8
売上原価	27,166	26,038	1,128	4.3
売上総利益	20,461	16,207	4,253	26.2
販売費及び一般管理費	13,010	12,097	912	7.5
営業利益	7,450	4,110	3,340	81.3
経常利益	7,143	3,899	3,244	83.2
当期純利益	4,715	2,285	2,430	106.4

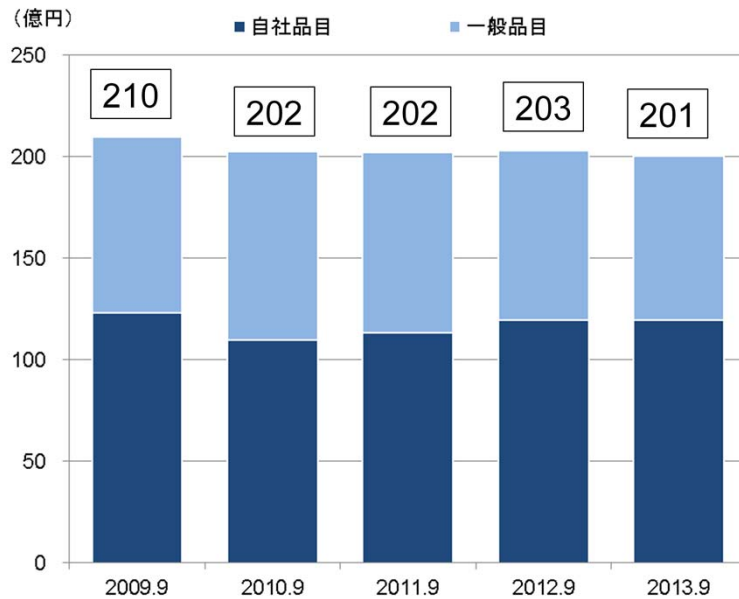
前期の売上高は476億27百万円と前期比53億81百万円、12.7%の増収であります。

利益面では増収効果に加え、ノウハウ技術料の増加や為替の円安基調での推移などもあり、営業利益は74億50百万円と前期比33億40百万円、81.3%の増益であります。

経常利益は71億43百万円と前期比32億44百万円、83.2%の増益、さらに、当期純利益は47億15百万円と前期比24億30百万円、106.4%の増益であります。

## 国内農薬販売 — 売上高構成比

### 一部の第三者品目の販売中止などから微減



上のグラフは、国内農薬販売の売上高構成比の推移を表したものです。

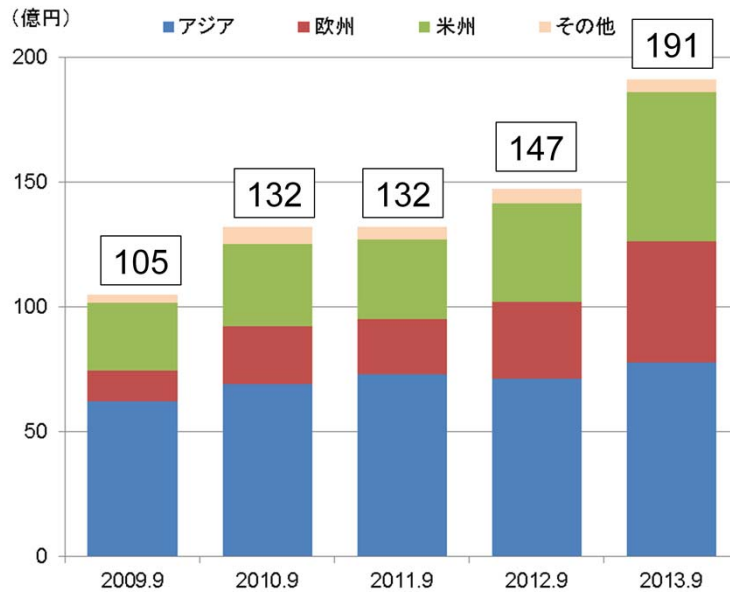
前期は新製品5剤を上市し、品目ポートフォリオの拡充を図るとともに、園芸用殺虫剤「フェニックス」などの主力自社品目の普及拡販に努めました。

また、農薬原体販売では園芸用殺虫剤「コテツ」などの販社への出荷が好調に推移しました。

しかしながら、当用期の天候不順や記録的な猛暑の影響もあり、前期の国内販売全体の売上高は、200億55百万円と前期比2億70百万円の減収であります。

## 海外農薬販売 — 地域別売上高

### アジア、欧州、米州各地域とも売上高伸長



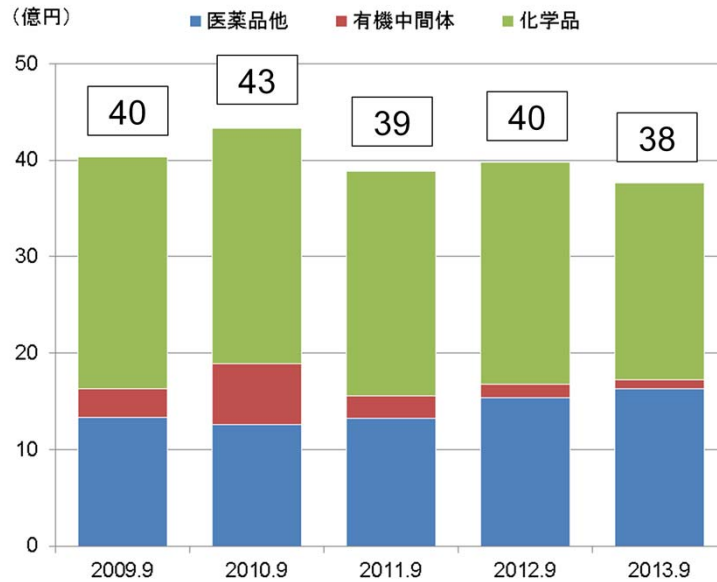
上のグラフは、海外農薬販売の地域別売上高の推移を表したものです。

前期はアジア、欧州、米州各地域とも売上高が伸長しました。品目別では韓国で上市2年目を迎えた園芸用殺虫剤「コルト」の本格的普及が進み、販売が好調に推移しました。

また、為替の円安基調での推移などから、海外販売全体の売上高は191億16百万円と前期比43億81百万円の増収であります。

## 化学品・医薬品他 — 事業部門別売上高

### 化学品事業の「選択と集中」(前年度)等が影響



上のグラフは、化学品・医薬品他の事業部門別売上高の推移を表したものです。

医薬品事業では、外用抗真菌剤「ラノコナゾール」、「ルリコナゾール」とも国内医療用での販売が好調に推移しました。

化学品事業では、シロアリ薬剤が販路拡大などから売上高が伸長しました。

しかしながら、当社は事業の「選択と集中」の観点から2012年度に水処理薬剤事業を譲渡し、有機中間体事業を当面休止したため、売上高は37億63百万円と前期比2億17百万円の減収であります。



---

## II. 中期経営計画のブラッシュアップについて

---



# 中期経営計画の方針

(ビジョン) Nichino Group - Growing Global  
世界で戦える優良企業へ

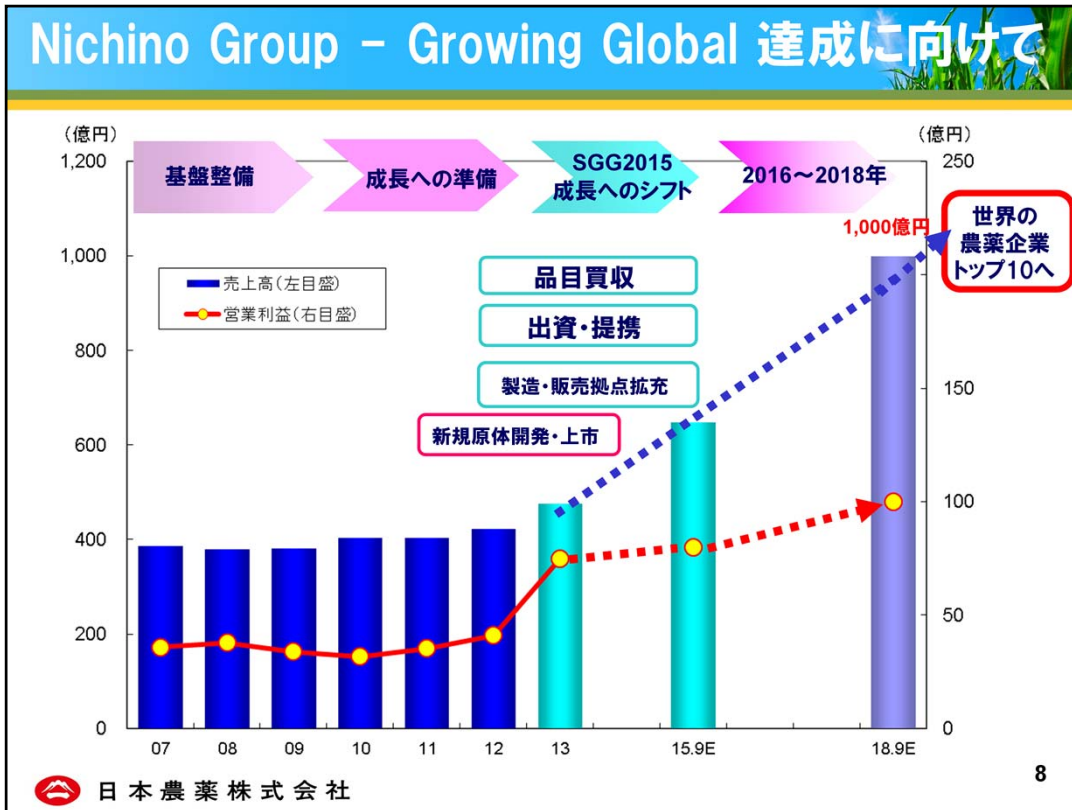
Shift for Growing Global 2015 成長へのシフト  
製品開発と事業開発の両立  
【品目主体(開発・販売)の事業展開に加え、自らがビジネスの枠組みを創造・提供する企業へ】



当社グループは、2013年度を初年度とする中期経営計画「Shift for Growing Global 2015 成長へのシフト」を推進中であります。

この計画の方針についてご説明致しますと、当社グループは、この3か年で「成長戦略の推進」と「高収益体質の追求」を2本柱として、M&Aや提携、品目買収などの「事業拡大の取り組み」を実行し、事業規模の拡大を目指します。

また、これらを実現するための基盤となる「人材育成」にも積極的に取り組み、従来の品目主体の事業展開に加え、自らがビジネスの枠組みを創造・提供することにより中期経営計画とグループビジョンの達成を目指してまいります。



ご覧のグラフは、2007年度から2018年度までの売上高と営業利益の実績と計画を表したものです。

2012年度までの6年間は、基盤整備と成長への準備期間との位置付けであり、この間の業績は安定的ではありましたが、しかしながら、将来の更なる成長と飛躍を目指すには、積極的な目標設定とそのための戦略立案が必要であると判断し、成長路線へ舵を切ることと致しました。

先程、ご説明致しましたように、現在の中計期間中にM&Aや提携、品目買収などの施策を着実に推進し、2018年度の売上高1,000億円を一つの通過点として、グループビジョンである世界でトップ10に入る研究開発型企业を目指してまいります。

## 中期経営計画(Shift for Growing Global 2015)

### ➤ 初年度の成果

- 業績は、対計画・対前期を上回り最高益を更新
- NNF-0721の登録審査が順調に進展
- 外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の中国・米国承認取得
- 成長戦略案件(提携、品目買収、M&Aなど)は、着実に進展
- 子会社業績の改善(NAI、日佳農薬、日本エコテック)

初年度である前期の主な成果をご説明致しますと、業績は対計画・対前期を上回り、最高益を更新しました。

開発面では、新規の汎用性殺菌剤「NNF-0721」の2018年上市に向けた登録審査が順調に進展しております。

また、医薬品事業においては、本年9月に外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の中国での販売の承認を取得致しました。また、去る11月14日には米国でもルリコナゾールの販売の承認を取得しました。

提携、品目買収やM&Aなどの成長戦略案件については、内容は詳らかに申し上げますが、着実に進展しております。

さらに、前期は連結子会社である、ニチノーアメリカ、日佳農薬、日本エコテックの業績が改善し、連結業績向上に寄与しました。

## 中期経営計画の進捗状況

### 除草剤「オルソスルフアムロン」の譲り受け

ISEM S.r.l. (本社:イタリア)から  
除草剤「オルソスルフアムロン」を譲り受け(2013年10月)

- 海外向け除草剤分野の補完・拡充による製品ポートフォリオの充実
- 海外事業展開のスピードアップと競争力強化

- 商品名：STRADA(ストラダ)、KELION(ケリオン)など
- 用途：水稲用除草剤、サトウキビ増糖剤
- 販売国：米国、ブラジルなど
- 開発用途：小麦用除草剤、ダイズ・トウモロコシ播種前処理除草剤、芝用除草剤など
- 開発地域：東南アジア、欧州、中近東
- ピーク時売上高：数十億円

次に、具体的な進捗状況についてご説明致します。

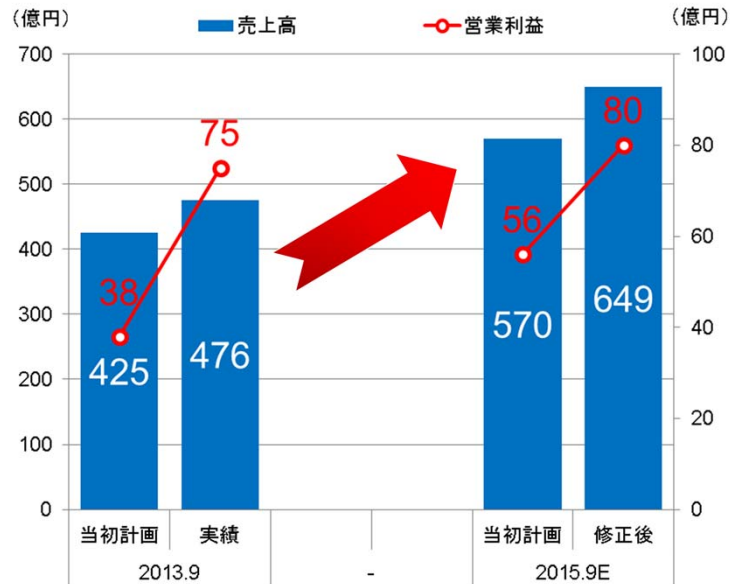
当社は、本年10月にイタリアのISEM社より除草剤「オルソスルフアムロン」を譲り受けました。これは、海外向け除草剤分野の補完・拡充による製品ポートフォリオの充実と海外事業展開のスピードアップ、競争力強化を目的とするものであります。

オルソスルフアムロンは、スルホニルウレア系除草剤で、水稲用除草剤あるいはサトウキビ用増糖剤として米国、中国、インド、ブラジルなどで登録・販売されております。

今後は、小麦用除草剤、ダイズ・トウモロコシ播種前処理除草剤や芝用除草剤などとして、東南アジア、欧州、中近東での開発を目指してまいります。ピーク時売上高は数十億円を見込んでおります。

## 中期経営計画のブラッシュアップについて

### 業績目標(売上高、営業利益)



11

当社は、前期決算を踏まえ既存事業における為替などの事業環境の変化の確認とM&Aなどの当初策定した案件を見直すとともに新たな案件を追加し、業績目標を修正致しました。

中計最終年度の2015年度業績は、既存事業の収益改善と成長戦略案件の着実な推進により、ご覧のグラフにありますように、売上高は649億円、営業利益は80億円の計画であり、売上高と利益の双方で過去最高水準を目指すものであります。



---

## III. 2014年9月期見通しについて

---



## 2014年9月期計画(前期比)

### 増収ながら戦略的経費が増加

(単位:百万円、%)

	14年9月期	13年9月期		
	計画	実績	前期比	伸び率
売上高	52,500	47,627	4,872	10.2
国内農薬販売	20,000	20,055	△ 55	△ 0.3
海外農薬販売	23,000	19,116	3,883	20.3
化学品・医薬他	3,600	3,763	△ 163	△ 4.3
ノウハウ技術料	4,000	2,814	1,185	42.1
その他	1,900	1,876	23	1.2
売上原価	30,100	27,166	2,933	10.8
売上総利益	22,400	20,461	1,938	9.5
販売費及び一般管理費	14,900	13,010	1,889	14.5
営業利益	7,500	7,450	49	0.7
経常利益	7,300	7,143	156	2.2
当期純利益	4,800	4,715	84	1.8

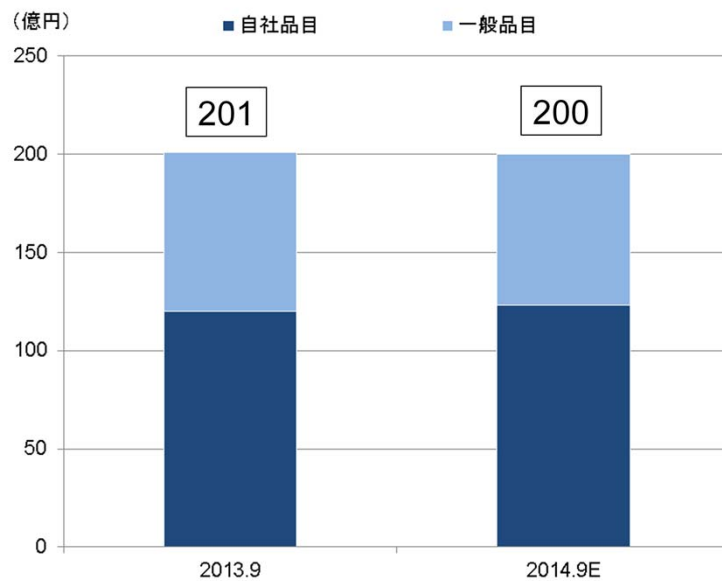
今期の売上高は、海外農薬販売とノウハウ技術料の増収を主要因に525億円と前期比48億72百万円、10.2%の増収の計画であります。

利益面では増収効果に加え、ノウハウ技術料の増加などから売上総利益は224億円と前期比19億38百万円、9.5%の増益の計画であります。

その一方で、将来への事業拡大と収益向上に向けた積極的な先行投資による販管費の18億89百万円増加から、営業利益は75億円、経常利益は73億円、また、当期純利益は48億円とそれぞれ前期実績をわずかに上回る計画であります。

## 国内農薬販売 — 売上高構成比

### 自社品目の拡販を目指す



上のグラフは、今期の国内農薬販売の売上高構成比の計画を表したものです。

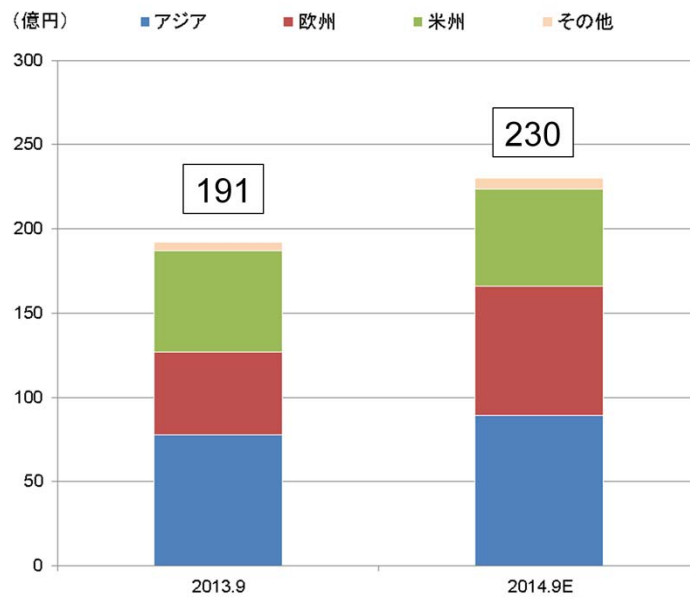
今期は、販売品目の一部欠落の影響もあり売上高は、200億円とほぼ前期並みを見込んでおります。

水稲用殺菌剤「ブイゲット」などの主力自社開発品目の拡販を目指します。



## 海外農薬販売 — 地域別売上高

### アジアと欧州の売上高増加を見込む



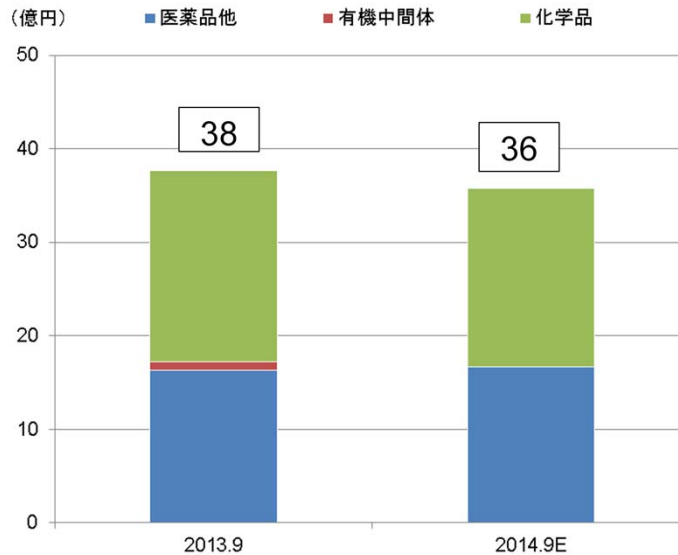
上のグラフは、今期の海外農薬販売の地域別売上高を表したものです。

アジア地域ではフェニックスを始めとする主力自社開発品目の各国での普及強化により、売上高の拡大を目指します。

海外販売全体の売上高は230億円の計画です。

## 化学品・医薬品他 ― 事業部門別売上高

### 外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の米国登録取得



上のグラフは、今期の化学品・医薬品他の事業部門別売上高の計画を表したものです。

医薬品事業においては、販社支援強化などにより外用抗真菌剤の拡販と開発促進を目指します。

なお、外用抗真菌剤「ルリコナゾール」は、本年9月の中国での販売の承認取得に続き、11月には米国においても承認を取得し、最速での発売を目指して準備を進めております。



---

## IV. 海外展開と研究開発の状況について

---

# 海外拠点の拡大と普及員強化

## 海外競争力の強化



上の世界地図は、当社の海外拠点を表したものです。


青でお示したとおり、欧米及び中国、台湾に4つの子会社があり、他にオレンジ色でお示したフランス、イタリア、マレーシア並びにオーストラリアの農薬会社4社に出資しております。

その他に、バンコックに現地事務所を置いております。また、現地普及員をアジアでは韓国、インド、ベトナムに、中南米ではメキシコ、コロンビア、ブラジル及びチリに配置し海外競争力の強化を図っております。

# 研究開発力の強化

## 創薬難度が高まる中、新規剤を着実に上市

品目名	特 徴	2003	2004~2006	2007~2009	2010~2012	2013~
ブイゲット	水稲用殺菌剤 いもち病、細菌性病害	→ (03.4 上市)				
フェニックス	園芸、水稲、芝用殺虫剤 チョウ目害虫	→	→	→ (07.4 上市)		
アクセル	園芸用殺虫剤 チョウ目、甲虫目害虫	→	→	→	→ (10.4 上市)	
コルト	園芸用殺虫剤 カメムシ目、アザミウマ害虫	→	→	→	→ (10.12 上市)	
ダニコング	殺ダニ剤 広範囲なハダニ類に卓効	→	→	→	→	→ (15年上市予定)
NNF-0721	汎用性殺菌剤 広範囲な病害に卓効	→	→	→	→	→ (18年上市予定)

 日本農薬株式会社

19

上の表は、近年の当社の新規自社開発品目の開発実績と現在開発中の品目を表したものです。

2003年の「ブイゲット」を皮切りに2010年の「コルト」まで順調に新規剤を4剤上市致しました。

さらに、赤色でお示した新規自社開発品目には、殺ダニ剤「ダニコング」と殺菌剤「NNF-0721」があります。

## 新規開発品目への取り組み

### 新規殺ダニ剤「ダニコング」

- ✓ 広範な植物加害性ハダニ類に卓効
- ✓ 既存剤に比べ残効性に優れ既存剤に抵抗性を示すハダニ類にも有効
- ✓ ダニトロンとの混合剤(商品名「ダブルフェース」)も含めて2015年上市に向けて開発中

### NNF-0721(新規汎用性殺菌剤)

- ✓ 広範な病害に卓効を示し、果樹、野菜、水稻、芝分野などに適用
- ✓ 既存剤に比べ残効性、耐雨性に優れ、安定した予防効果を示す
- ✓ 浸透移行性を有することから発病後の治療効果も高い
- ✓ 2018年上市に向けて開発中

新規自社開発品目2剤についてご説明致します。

殺ダニ剤「ダニコング」は、広範囲なハダニ類に高い効果を示すとともに残効性にも優れており、既存剤に抵抗性の発達したハダニ類にも有効であるという特徴を有しております。

現在、既存の当社殺ダニ剤「ダニトロン」との混合剤、商品名「ダブルフェース」と併せて2015年上市に向けて開発中であります。

また、殺菌剤「NNF-0721」は広範囲な病害に高い効果を示し、果樹、野菜、水稻及び芝分野に使用することが出来る汎用性殺菌剤であります。

既存剤に比べ残効性と耐雨性に優れ、安定した予防効果を示すとともに浸透移行性を有することから発病後の治療効果も高い剤であります。現在、2018年上市に向けて鋭意開発中であります。

## 業績予想・事業計画に関する注意事項

**本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。**